



西川監督から贈る言葉



榊原は、成美大学の北川コーチからの紹介と市和商の真鍋元監督から連絡を頂きセレクションに参加しました。

西口の後輩ということもあり、勝手に陽気なチャラ系を想像していましたが、良い意味で裏切られ「実直な好青年」でした。

また、セレクションでは、バットスイング測定で150km以上を連発し、「ガンが壊れてるのでは」とマネージャーに言ったのを覚えています。

入部1年目は、捕手として期待をしていましたが、肩の故障もあり1塁手にコンバートとなり、レギュラーとしては試合に出る機会に恵まれませんでした。時間があればブルペンにも出向き裏方としても頑張ってくれていました。

ここ一番の代打の「切り札」として活躍をしてくれ、特に昨年の都市対抗2次予選の大阪ガス戦での一打は見事でした。

私の後悔は、その年の西近畿予選の県警桃太郎戦での9回サヨナラの場面で、ベンチで皓と目が合ったのにも係わらず、「代打皓」のコールが出来なかった事が、脳裏から離れず、結果は分かりませんが、「切り札」を使い切れなかった私の采配ミスだとずっと引きずりました。

今年は、箕島店リニューアル後、忙しくなり練習が思うように出来ない中、選手権前の最後の日本生命戦とのOP戦で放った代打での一打に勝負強さを改めて認識し、選手権の一番での「切り札」として、今度は迷いなく使いました。

これから、第2の人生を歩みますが、これからは「切り札」ではなく人生のレギュラーを目指して頑張ってください。